

薬剤師による緊急避妊薬提供に必要な知識とスキル習得のための ケースシナリオを用いたワークショップ

土屋桃子¹⁾, 山村重雄²⁾

1：城西国際大学 学生、2：日本コミュニティファーマシー協会

背景と目的

先進国において緊急避妊薬（ECPs）の提供は薬局・薬剤師の重要な役割となっているが日本では（議論が続いているものの）現状では入手するのに処方箋が必要である。ECPsを薬局で処方箋なしで購入できるようにしてほしいという要望は多い。そこで、すでに薬局でECPsの提供が行われているカナダで「性と生殖に関するサービス」に関する教育に携わっている教員を招き、薬剤師がECPsを提供する際に必要な知識とスキルを身につけるケースシナリオを用いたワークショップ(WS)を開催した。WS前後のアンケート調査から参加者のECPs提供や避妊に対する意識の変化を考察する。

方法

講師にはアルバータ大学薬学部教員2名を招聘した。ECPs提供に必要な知識に関するビデオを作成し、参加者にはWSに先立ってビデオを閲覧して事前に自己学習を求めた。WSでは、講義とSGDを併用し、ECPs提供の可否を判断するための情報収集、ECPs提供時に必要なカウンセリングをテーマにした二つのケースシナリオを用いた。WS前後にECPs提供に関する意識や自信に関するアンケート調査を行った。研究デザインは対照のない縦断研究であり、質問内容はWS前後で同じものを用いた。

結果

WSの参加者は20名（女性が16名、男性が4名）であった。年齢は20歳代から70歳代まで分布し、経験年数も幅広かった。

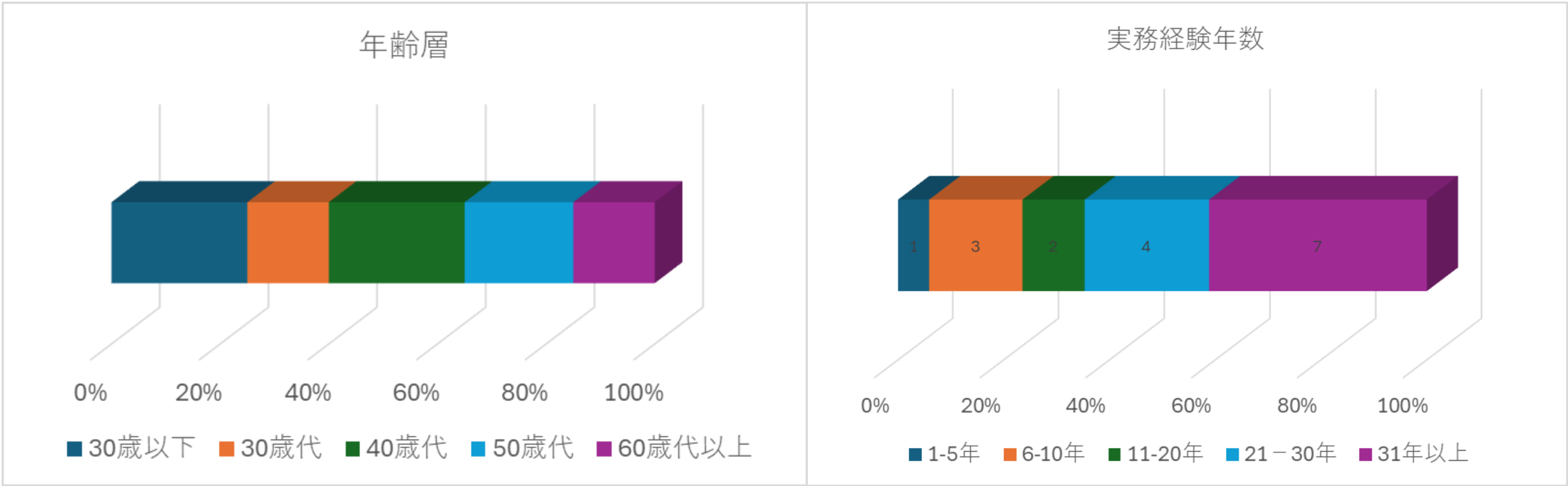


図 1 参加者の年齢層と経験年数

参加者の性と生殖に関するサービスの提供状況を図2に示した。経口避妊薬の処方箋調剤は行っている人が多かったが、一般的な避妊法に対する情報提供を行っているひとが少なかった。

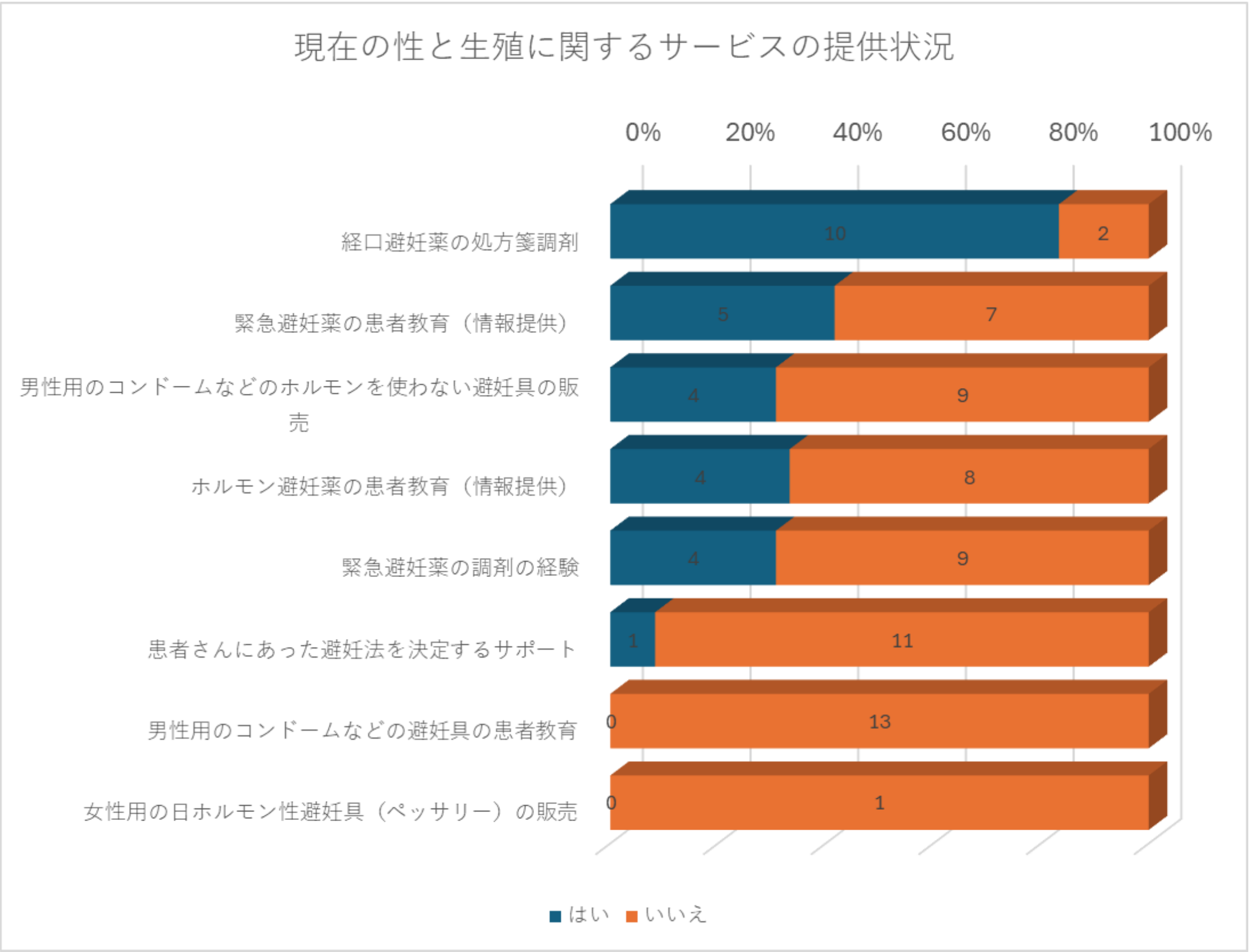


図 2 現在の性と生殖に関するサービスの提供状況

WSの前後でECPsの提供に対する自信を比較した結果を図3に示した。WS後では、患者からの情報収集、患者カウンセリングに対して自己評価における自信が大幅に上昇した。

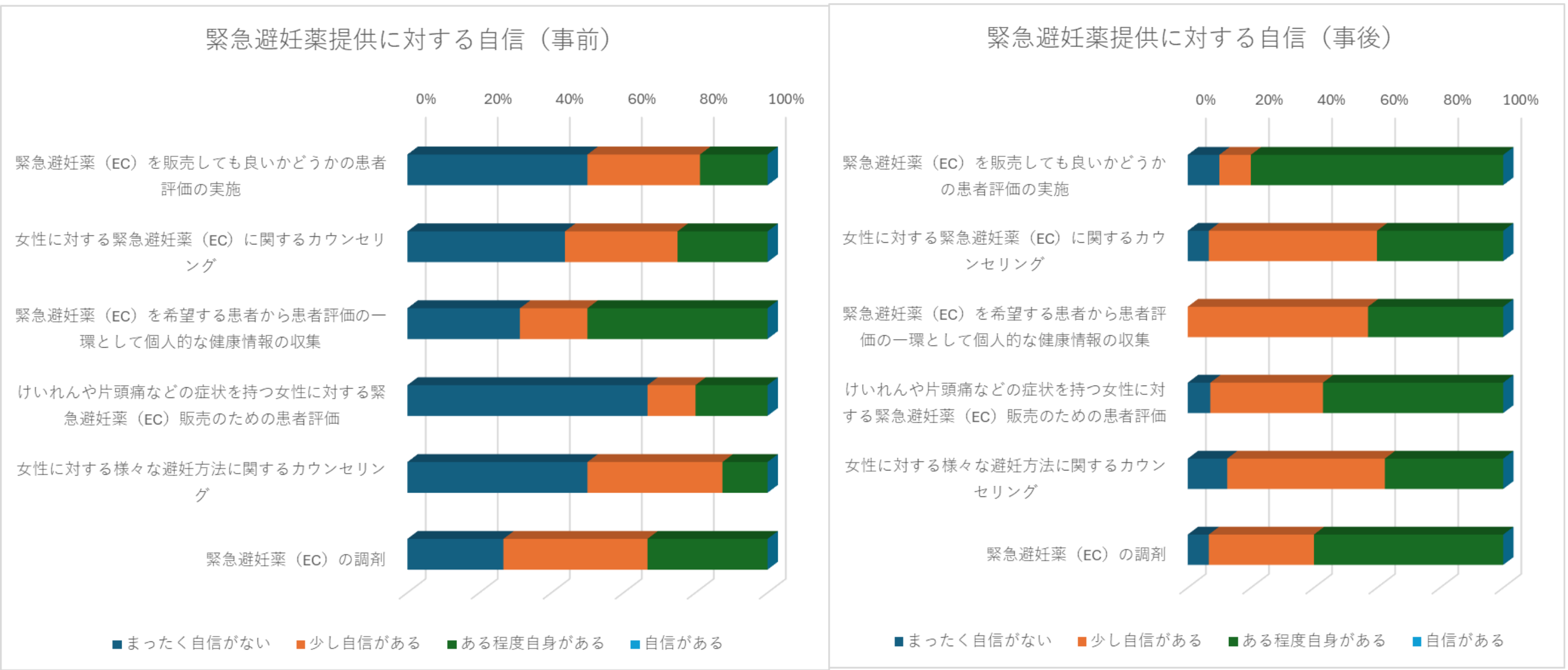


図 3 WS前後での緊急避妊薬提供に対する自信の変化

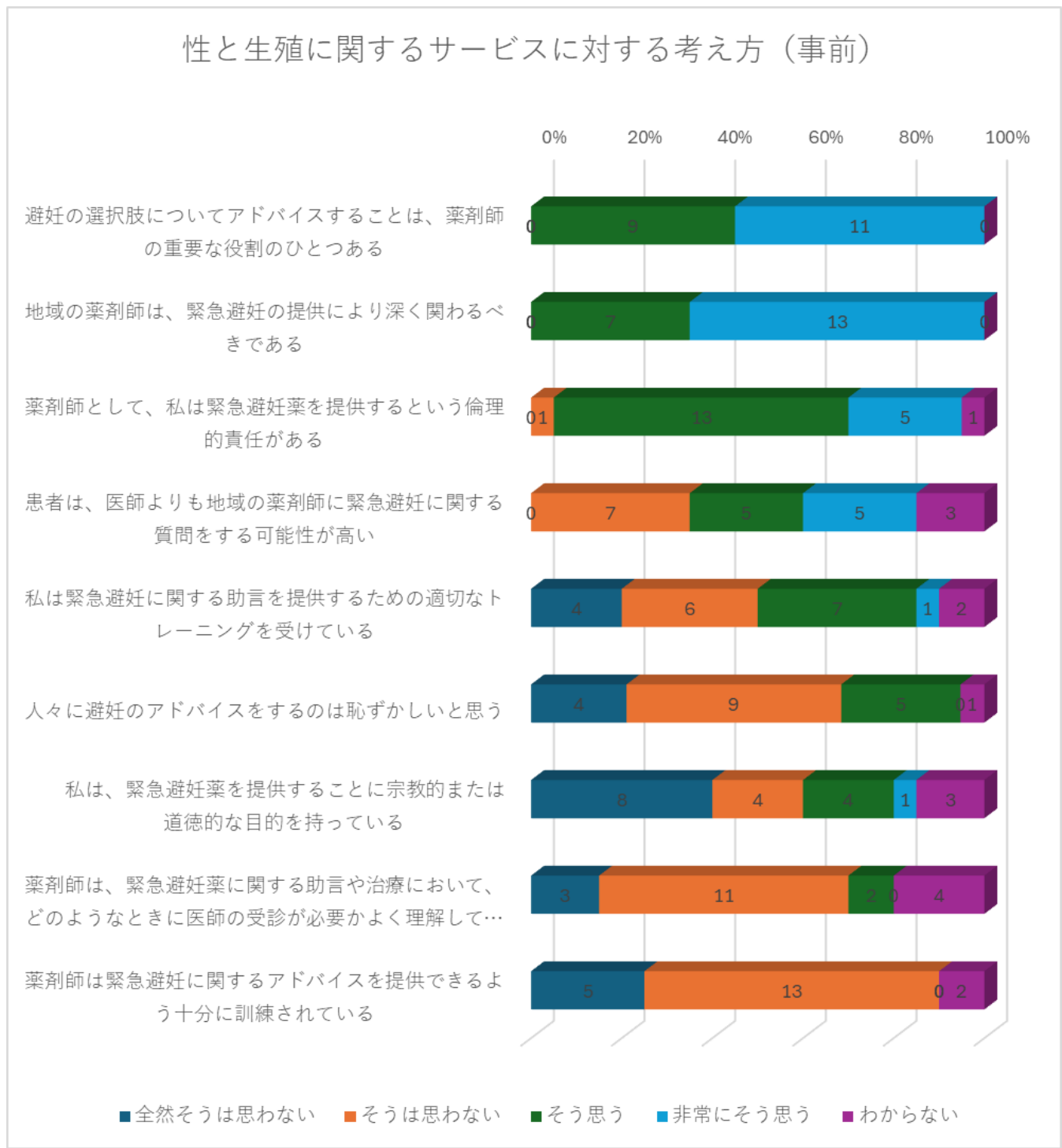


図 4 性と生殖に関するサービスの提供に対する考え方

考察

今回の患者シナリオを用いたWSによって参加者がECPsの提供に対する自信を深めた要因としては、事前課題として必要な知識を事前に学び、実際に起こりえるシナリオを用いたWSが有効だったと考えられる。WSは講義とシナリオをベースとしたディスカッションで構成されていたのも参加者の評価が高かった。講義は英語で行われ逐次通訳がついたが、そのために進行がゆっくりであったことも参加者が自分の考えをまとめ、内容を理解するのに有効だったと思われる。

今回はWS前後で性と生殖のサービス提供に関する考え方に大きな変化はなかった。これは、参加者の多くがこの分野への意識がすでに高いことが影響していると思われる。

一方で、現状では薬剤師による幅広い性と生殖に対するサービスの提供が十分に行われていないことも明らかになった。ECPsの提供だけでなく薬剤師による地域住民への性と生殖に対するサービスの提供を充実させる必要がある。

結論

対照群がないこと、参加者はECPsの提供に関して意識の高い人が多かったこと、また、参加者数が十分ではないので結果にはバイアスや限界があるが、ケースシナリオを用いたWSでECPsに関する情報収集、患者カウンセリングに関して学ぶことは参加者の知識を向上させてECPs提供の自信を向上させる一定の効果があることが示された。

学生としてWSに参加した感想についてもお話ししたいと思います。